

「新学習指導要領」の趣旨を活かした、令和型単元計画と英語科学習指導案

日 時：令和8年10月7日（水） 5校時
 学校名：神戸市立太山寺中学校
 対 象：2年3組34名（男子18名 女子16名）
 会 場：2年3組教室
 指導者：井田 昌宏

1 単元について（下線部は、「生徒が英語を使って何ができるか」に特化し、「つきたい力」を身につけるための指導と工夫）

単元（題材）名	Unit 4 “What is important in a homestay?” (NEW HORIZON English Course) 東京書籍		
学習指導要領に関連する領域別目標	1 目標（4）話すこと（発表） イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりある内容を話すことができるようにする。		
単元（題材）の目標	（1）既習の表現を用いて、事実や考え、気持ちなどを伝え合うことができる <div>【知識・技能】</div> （2）新しいALTの先生の国と日本との生活の違いについて、事実や考えを整理し、伝えることができる <div>【思考・判断・表現】</div> （3）相手にわかりやすく伝わるように、事実や考えを伝え合おうとしている <div>【学びに向かう力、人間性】</div>		
生徒の実態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	既習の文法事項を理解し、それらを使って表現することができる生徒が増えてきたが、単語だけで伝えようとする生徒もいる。 ※授業後の課題として、各自の発表ややり取りの内容を英文で書かせ、添削をさせ、授業でよくある間違いをフィードバックしている	自分の考えやその理由を述べることはできるが、話に沿った質問をする質問力が今後の課題となる。また掘り下げられた内容を聞かれた際に、的確な答えを返すことを苦手としている。 ※マッピングを共有し、キーワードをもとに質問を作る活動をしている。	活動に対して、意欲的に取り組む生徒が増えてきた。前向きに基本文の習得をしようとする生徒が多い。しかし、自分の意見に自信を持てず、粘り強く取り組むことができない生徒もいる ※発表後にペアまたはグループ内でアドバイスをもらう時間を確保するようにしている。
単元（題材）設定の理由	（1）生徒観 本学級は明るく活発な生徒が多い。ペアワークやグループワークに積極的に取り組むことができる生徒が増えてきた。しかし英語に対する苦手意識を持つ生徒もいるため、学習意欲に差がある。 ここまでの授業において、できるだけ「自分ごと」になるように、トピックを調整し続けてきた。生徒に身近な事象につなげて掘り下げ、共同学習が展開できるようにしたい。		

(2) 教材観

本単元「What is important in a homestay?」では、異文化環境での生活マナー、コミュニケーションの大切さや難しさなどについてさまざまな気づきがあり、9月から新しくALTの先生が来る時期でもあるため、日本での生活様式を発表することで、ALTの先生に伝える力を育成することを目指す。ALTの先生にインタビューをしてフィリピンと日本の違いについて理解をするために「話すこと（やりとり）」の育成や、これまで学んできた文法や表現を実際の場面で活用することで「話すこと（発表）」の育成を図る。

(3) 指導観

本単元を達成するために9月までに指導してきたことは大きく 点ある。

1点目は「基本的な英文を作る力」を高めるために、帯活動として基本文トレーニングに取り組んできた。ペアを組み、相手の質問に即答できるようにトレーニングを行ってきた。生徒はこれにより、簡単な文を使って自分の考えを応答することができるようになった。しかし、まだまだ改善の余地があるため、今後も取り組みを続ける。

2点目は思考ツールを使用し、「自分の考えや意見を広げ、整理する力」を高める取り組みを続けてきた。生徒はこれにより基本文トレーニングで身につけてきた表現を活用し、トピックに対する自分の意見を順序だてて伝えることができるようになってきた。今後、関連する質問ができるように練習を重ねる必要がある。

3点目は「話すこと（発表）」や「話すこと（やりとり）」を高める上で、自己調整の時間を確保することに努めてきた。発表やペアワーク、グループワークでやりとりを行った後に、自分が言いたかったが言えなかった表現や、他者の発表等を見た後に、良い例を自分の発表に取り入れるなど、自分の英語を改善することができるように取り組んできた。

単元（題材）の評価 規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<div>知識</div> <p>have to, don't have to や must などの（準）助動詞と動名詞の意味・用法を理解している。</p> <div>技能</div> <p>学んだ文の構造を活用し、日本の生活習慣や生活マナーを説明することができる。</p>	新しいALTの先生の出身の国（フィリピン）と日本の学校生活やルールの違いを、ALTの先生へのインタビューを通して、情報を収集・整理し、簡単な語句や文を用いて表現することができる。	新しいALTの先生の出身の国と日本の学校生活やルールの違いについて、事実や自分の考え・気持ちなどを整理して、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。 ペアワークやグループワークにおける、仲間の良い発表ややりとりを参考にしながら自分の英語に取り入れようとしている。またALTの先生からもらったアドバイスを踏まえて、より積極的に自分の英語の改善をしようとしている。

2 単元の指導と評価の計画 (全 10 時間)

時間	学習内容		【評価の観点】 評価規準	学習課題 (■) と主な学習 (言語) 活動 (○)
	帯活動	学習内容		
10	帯活動なし	単元を通して学んだことを生かし、日本の生活習慣やマナーについて発表する。終われば、聞いている生徒からの質疑応答を行う。	【話すこと (発表)】 ALT の先生に日本の生活やマナーについて ALT の先生に向けてスピーチを行う。	事後活動：スピーチした内容を英文に起こす。 Teams の課題機能を使って提出 ⑤ふりかえり 単元前と単元後と比較して、何ができるようになったのか、次の課題は何かをワークシートを使ってふりかえる。 ④OTE・ALT からフィードバック 生徒の具体的に良かった点を挙げて、他者参照を行えるようにする。また ALT からは知らなかった日本の生活習慣やマナーについても取り上げてもらう。 ③発表と質疑応答 それぞれの発表に発表者からの問いかけと発表後に質疑応答の時間を設ける。 ②発表時のルールを確認する ①授業の流れと目標の確認 Teams で PowerPoint を作成して発表を行うが、電池残量や当日の不具合等の対策として前日までに Teams に提出をさせる。
				主体的な学び 対話的な学び 深い学び
9	帯活動なし	中間発表 発表本番に向けての中間発表を行う。	【話すこと (発表)】 事実や自分の考えを整理したマッピングをもとに簡単な語句や文を用いて伝えることができる。 自己調整を図り、自分の発表を改善することができる。	・ふりかえり 他の生徒のスピーチを聞いて、自分のスピーチに生かせることをさがす。 ・本番に向けた作戦タイム ・グループメンバーからのフィードバック お互いに改善した方がいいところを取ってコメントする。 ・3人グループでの中間発表 ・フィードバックに必要なメモの取り方の説明 ・本番のルーブリックの確認 ・3択ペアチャット
				主体的な学び 対話的な学び 深い学び
8 本 時	基本文トレーニング (Unit4)	発表準備 日本の学校生活やルールについて考え、ALT の先生に日本の学校生活やルールを伝えることができ	【話すこと (発表)・(やりとり)】 ペアマッピングをもとに簡単な語句や文を用いて、グルー	事後課題：スピーチした内容を英文に起こす。 Teams の課題機能を使って提出。また自分のマッピングを写真で撮って提出。 ⑧ふりかえり 授業の前と後でできるようになったことについて振り返る。

		る。	プの中で考えを共有することができる。 自己調整を図り、自分の発表を改善することができる。	⑦グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。 ⑥自己調整 ⑤のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。 ⑤グループでスピーチを行う 作戦タイムを設けて、取り組ませる ④ペアマッピングで質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。 ③ペアマッピング A3のペアマッピング専用シートを利用 ②Teachers' Talk ALTとOTEがやりとりをする中で、ALTが日本に来てから驚いた生活習慣やマナーについて紹介する。 ①基本文トレーニング			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
7	3 択ペアチャット What school events do you like the best? -sports day -chorus contest -school trip enjoy ~ing を使わせる。	ALTの先生の出身国であるフィリピンの1日の学校生活についての話を聞き、日本の学校生活との違いをまとめる	【話すこと（やりとり）】 ALTの先生にフィリピンの学校生活について、自分の考えを整理し、マッピングをもとに既習の表現を用いて質問することができる。	ALTの先生の出身の国の学校生活のルールやマナーについて聞き、日本の学校生活と違うところをメモする。 ⑥ふりかえり フィリピンと日本の学校生活における違いに気づかせる ⑤マッピングと並行してALTが各グループを回る。グループは4人編成。ALTが回ってきたら、フィリピンの学校生活について聞く。 ④マッピング ③マンダラート フィリピンでの学校生活についてALTの先生に聞きたいことを書きだす。 ②ALTからフィリピンにおける1日の学校生活についてパワーポイントを使って説明する。 ①3 択ペアチャット			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
6	基本文トレーニング	基本文テスト	【書くこと】 【聞くこと】	・ふりかえり ・音読テストのアナウンス			

	グ (Unit4)			<p>Unit4 終了後、音読テストを行う。Wpm は前回同様 140 程度で取り組ませる。デジタル教科書を利用し、各自計測しながら練習をさせる</p> <p>・音読練習</p> <p>Unit 4 の音読練習。音のつながりや消失についても紹介する。</p> <p>・基本文テスト</p> <p>基本文をベースに、ここまでの授業で習った表現をテストする。また3 択ペアチャットで取り組んできた。I think ~ is important because… の形の 3 択英作文も出題する。</p> <p>・基本文トレーニング</p>			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
5	3 択ペアチャット	日本での電車やバスにおけるルールや乗車マナーなどを伝えることができる。	【話すこと（発表）・（やりとり）】 日本での交通機関のルールやマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝えることができる。	<p>⑨ふりかえり</p> <p>⑧グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。</p> <p>⑦自己調整</p> <p>⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。</p> <p>⑥グループでスピーチを行う 作戦タイムを設けて、取り組ませる</p> <p>⑤ペアマッピングで質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。</p> <p>④ペアマッピング A 3 のペアマッピング専用シートを利用</p> <p>③マンダラート</p> <p>②Teacher Talk 乗車中には電話がかかってきても出ない、もしくは後出かけなおす例を、生徒とのやり取りの中で引き出す。</p> <p>① 3 択ペアチャット</p>			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
4	基本文トレーニング (Unit4)	Unit 4 Read and Think 2	【書くこと】 教科書本文を読み、自分がホームステイをどこ	<p>⑧ふりかえり</p> <p>⑦課題の提出 Teams にて課題を提出する。iPad 忘れについては、期限に猶予を持たせ、自宅で提出をさせ</p>			

			かの国ですとして、自分にとって必要なことを簡単な語句や文を用いて、書くことができる。	る。 ⑥自分がどこかの国でホームステイをするとして、自分にとって必要となりそうなものについてペアで話をする。 ⑤本文の「純がホームステイの体験」について読んで、純が必要だと感じているものを英語で答える。 ④ペアでの音読練習 音のつながりなどが正しく発音できているかをチェックする。速度も気にしてほしいので、ペアが時間を計測する。 ③教科書本文の音読練習 音のつながりや消失を中心に指導する。 ②キーセンテンスの練習 ①基本文トレーニング			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
3	基本文トレーニング (Unit4)	Unit 4 Read and Think 1	【書くこと】 教科書本文を読み、ルーカスとヨナが「どうすべきか」という悩みに簡単な語句や文を用いて、応えることができる。	⑦ふりかえり ⑥課題の提出 Teams にて課題を提出する。iPad 忘れについては、期限に猶予を持たせ、自宅で提出をさせる。 ⑤本文のルーカスの「What should I do?」ヨナの「What can I say?」に応える文章を作る。 ④音読練習 音のつながりなどが正しく発音できているかをチェックする。速度も気にしてほしいので、ペアが時間を計測する。 ③教科書本文の音読練習 音のつながりや消失を中心に指導する。 ②キーセンテンスの練習 ①基本文トレーニング			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
2	基本文トレーニング (Unit4)	Unit4 Part1, Part2	【話すこと（発表）・（やりとり）】 日本での食事でのルールやマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝えることができる。	⑨ふりかえり ⑧グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。 ⑦自己調整 ⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。			

				<p>⑥グループでスピーチを行う 作戦タイムを設けて、取り組ませる</p> <p>⑤ペアマッピングで質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。</p> <p>④ペアマッピング A3のペアマッピング専用シートを利用</p> <p>③マンダラート 日本で食事をするときの「しなければならないこと」「してはならないこと」について思考ツールを使って、考えを広げる。</p> <p>②Teacher Talk 日本で生活をする ALT の先生に、「日本ではしなければならないこと」「してはならないこと」を紹介しながら must, must not, have to, do not have to をバランスよく使う。</p> <p>①基本文トレーニング</p>			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
1	基本文トレーニング (Unit4)	Unit Question スピーチ ルーブリック 単元・学習内容		<p>⑤単元の目標、学習内容の紹介</p> <p>④最終スピーチとルーブリックの説明</p> <p>③Unit Question の紹介 What is important in a homestay?が教科書の単元を貫く問いになっているが、What are the differences between school life in Japan and Philippines?に変更し、ALT の先生に日本の生活について伝えていく単元だということを紹介する。</p> <p>②Teacher Talk 日本とアメリカの生活様式の違いの例を出す</p> <p>①基本文トレーニング 単元の最後まで使う基本文をまとめて出す。</p>			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					

